

2023年12月26日

掛川市長 久保田崇 様

団体名 小笠山を愛する協議会
代表 中山幸男

小笠山の貴重な自然や地質・歴史遺産の保全及びそれらに影響する これ以上の砂利採取等の開発を行わない(中止)要望書

日頃、環境行政の推進にご尽力をいただき感謝申し上げます。

さて、小笠山は標高265mの低山ですが、変化に富み自然が豊かで多くの動植物を育む所として知られています。植物は1300種(シダ176種)と多く、絶滅危惧種は14種もあり重要です。尾根には海岸性のウバメガシと山地性のアカガシの林があり併存しているのは珍しく、ヒカゲツツジやミツバツツジなどツツジ類も多く群生。谷などにはナチクジャクなど様々なシダが生育、絶滅危惧種のキンランや小笠山が北限自生地のスジヒトツバ、珍しいヤマビワ、トキワガキ、リュウキュウマメガキなどもあり貴重な山です。特に小笠神社や山頂の周辺、栗原川などの源流部は植生密度が濃く、希少植物も多い所です。

掛川市文化財保護審議会等の要職を歴任、日本植物分類学会賞を受賞し小笠山の植物に大変詳しい杉野孝雄先生は「小笠山の山頂周辺は植生的にも核心部で山頂を中心に半径2kmの円内に集中的多種分布している。全山を自然公園または森林公園として残すべき」と述べています。

野鳥も多く、照葉樹林などの森が広がり、ため池も点在する環境で98種の野鳥が繁殖または越冬しています。静岡県鳥に指定されているサンコウチョウも飛来。「掛川市自然環境の保全に関する条例」第6条「指定希少野生動植物種」鳥類5種のうち3種(アカショウビン、オオタカ、サシバ)の絶滅危惧種が確認されています。また、動物はカケガワオサムシなどの昆虫も多く、南方系の蝶やトンボが見られるなど豊富です。このようなことから山頂南西側に広がる国有林は保健保安林、一部は自然観察教育林に指定されています。

山頂周辺は特有の深い谷や大きく浸食された地形が点在、ケスタ地形は全国的にも珍しく、中でも固結した礫岩の狭隘な浸食谷「六枚屏風」について、静岡大学の延原尊美教授は「世界的にも珍しい奇観で地質遺産である」と話しています。

また、山頂から小笠神社の近くには徳川家康が築いた小笠山砦、続く風吹砦から南部に点在する砦は歴史的にも貴重です。

しかしながら、現在小笠山では砂利採取が山頂方向、西側にも大きく進み、山が削られ森が失われ、栗原川上流の植生豊かな谷には強風が吹き込むなど生育環境が大きく変化、希少動植物への影響が懸念されています。更なる開発により小笠山の唯一無二の自然が失われることは避けなければなりません。

私たちは、かけがえのない小笠山の自然、歴史遺産をしっかりと残していくため、以下3点について、市の取り組みを要望いたします。

記

- 1 小笠山では砂利採取が小笠神社北側まで進み、褐色の地面が露出し山が大きく変容しています。景観的に問題であることは無論、植生や生態系への影響も懸念されます。開発面積、環境影響調査はどうか。土砂災害の恐れはないのか。今後の開発予定は。条例や法令を踏まえ現地調査をお願いします。

2 以前あった貴重な北限自生シダ植物「リュウビンタイ」はありません。失われた自然は元に戻りません。このまま砂利採取が更に進めば、小笠山の魅力が永遠に無くなります。貴重な植物、地質遺産や歴史遺産などが存在する重要な地域、貴重な自然が存在する地域は、開発を避けて公共の利益・公益性等の観点からも保全すべきと考えます。

このため小笠神社北側まで進められている砂利採取について、小笠山の貴重な自然、植物や動植物を含む生態系等を維持するため、それらに影響する今後現状を越える範囲、山頂方面や栗原川、上小笠川など源流部等は開発されることなく保全すること要望します。

また、開発された領域は、破壊前の「照葉樹林を中心とした森林」を取り戻す事業(森の再生)を行うよう事業者には指導くださるようお願いいたします。

3 掛川市の中央にあり市街地に隣接し豊かな自然と自然環境に恵まれた小笠山の価値は計り知れません。森の中には様々な道があり、ハイキングやウォーキング、トレイルラン、自然観察、森林浴などに適し、心身のリフレッシュ・健康づくりの山・オアシスの山としても環境教育の面でも貴重です。広大な緑地は脱炭素の面からも大切です。

この素晴らしい自然を活かしたまちづくりが掛川市内の自治区等で進められ、大須賀町でのまちづくり情報交換会では「美しい小笠山でいてほしい」との意見もありました。市南部では高天神城址・楞巖寺山などのハイキングコースの整備も進められており、「歴史と緑の小笠山」のマップも作成されました。

掛川市環境基本条例には「掛川の豊かな環境を守ると共に、等しく市民全員が環境の恵みを受け、次世代に引き継いで行くことを目指し」とあります。

今後、自然豊かな小笠山の活用、後世に残す取り組みを望みます。

そのためにも「掛川市自然環境の保全に関する条例」に基づき、貴重な自然の多い小笠山で希少野生動植物の保護地区の指定を進めるとともに、土砂災害防止、水源涵養林等として保安林の指定、大浜公園や高天神城址周辺と同様に小笠山も静岡県立自然公園に編入するよう働きかけてくださるよう要望します。

また、貴重な歴史遺産の小笠山砦や風吹砦など砦の調査・保存、小笠池に架かる矢矧橋等、老朽化した施設への対応も要望します。

上記の要望に賛同する団体名(順不同)

日本野鳥の会遠江(代表 増田裕)

中遠登山クラブ(代表 内海廣治)

掛川遊歩会(代表 鈴木久裕)

里山を歩く会(会長 鈴木一政)

かたつむり山の会(会長 磯崎久和)

子丑山歩会(会長 野中幸一)

袋井ウォーキングクラブ(代表 岡本幹男)

掛川名木巨樹に親しむ会(会長 佐藤宏)

掛川のクマガイソウの大群生地を守る会(会長 斉藤明)

自然観察ほうじろの会(会長 増田久雄)



写真説明：小笠神社・山頂方向に迫る砂利採取(東尾根から)



写真説明：小笠神社の下まで進む砂利採取(小笠神社境内から)

貴重な自然、貴重な植物等(一部)



珍しい奇観、地質遺産の六枚屏風



クルマシダなど茂る谷



山が削られ明るくなった谷



スジヒトツバ(絶滅危惧種)茂る谷



スジヒトツバ(絶滅危惧種)



貴重なナチクジャク



キンラン(絶滅危惧種)



アカガシとウバメガシが併存



尾根に咲くミツバツツジ



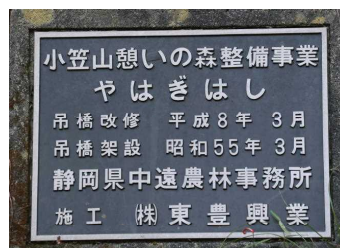
尾根に咲くヒカゲツツジ



サンコウチョウ(静岡県鳥に指定)



小笠山砦の堀切



←老朽化した矢矧橋

石

←掛川層群の貝化

